

## 梁塵秘抄

後白河法皇が編む。一一八〇年頃か。四首目に「信濃の戸隠」とある。高野辰之編(東京堂1943)『日本歌謡集成 卷二』から引用。

なお、

「淵々ふちふちかせに神さび」は「淵々風に神さび」、

「土佐の室生むろぶと」は「土佐の室生門」、

「かはひみつし」は「川ひみつし」、

「すべりし水飲みずのみ」は「滑石水飲み」

とも読まれている。

### 靈驗所歌六首

○何れか法輪へ参る道、内野通りの西の京、それ過ぎて、  
や、常盤林の彼方あななる、あひく行流れ来る大堰川。

○嵯峨野の興宴けうえんは、山たう(はふカ)かつらまうく車田くるまだ  
(本ノママ)、二條河原、龜山法輪や、大堰川、淵々ふちふちかせに神

さび、松尾まつのをの最初さいその二月きさらぎの初午とみくぼに富配とみくぼる。

原本きさらぎノ横ニ無之ト小書キニセリ。

○嵯峨野の興宴は、鶉舟筏師流れ紅葉、山蔭響かす箏の琴、  
浄土の遊びに異ならず。

○四方の靈驗所は、伊豆の走井、信濃の戸隠、駿河の富士  
の川、伯耆の大山、丹後の成相とか。土佐の室生と讃岐の  
志度の道場とこそ聞け。

○筑紫の靈驗所は大山四王寺清水寺、むさし清瀧、豊前國  
の企救の御堂な。竈門の本山、彦の山。

○根本中堂へ參る道、賀茂河はかはひみつし（ひろしカ）、  
観音院の下り松、ならぬ柿の樹人やどり禪師阪、すべりし  
水飲四郎阪、雲母谷太田袈裟の池、あこやの聖が立てたり  
し千本の率塔婆。

註 「国立国会図書館デジタルコレクション」の『日  
本歌謡集成 卷二』の263コマ目。

DOI 10.11501/1176548

なお、「日本古典文学大系〈第73〉」にも翻刻があ  
る。